

「面積はかせにチャレンジ」 ～面積～

1 提案の主張点

学年を5コースに分け、単元丸ごと習熟度別学習を実践した。そうすることにより、コース内の習熟度の差が小さく、よく似た能力や学びのスタイルをもつ児童同士で学習できるし、また、人間関係を密にし、楽しく学び合いができると考えた。また、この習熟度学習を更に有効に機能させるために、児童の実態や児童に合う学習の場の設定・支援等を書き込んだフロアプランを作成した。

【チャレンジコース30名】

友だちのかいた図と式からその求め方を推測し、全体での話し合いを通して、考え方の共通点を見つけた。

【ファイト1発コース30名】

自分の考え方に自信を持たせるために全体交流の前にペアで交流させる活動に重点をおいた。友だちのかいた式からその求め方を推測し、話し合いを通して、考え方の共通点を見つけた。

【ファイト2発コース30名】

他のコースと比べて能力の差が大きい。全体の場で自分の考えを自信を持って発表できるよう、全体交流の前にペアや友だちと交流させる活動を大切にした。

【ファイト3発コース22名】

遅れて進む児童が半分いる。話し合いで、発表をつなげていくことができてきた。公式を用いて答えを求め、満足感を持たせることに重点をおいた。

【ホープコース9名】

学び合いは難しいが発表が好きである。課題をつかむ場面に時間をかけ、具体物の操作活動を大切にした。

2 提案に対する意見

Q コースの分け方について

資料1 アンケート結果(P.54)のあまり意欲がでない11%、あまりやりたくない12%の理由は？

A プレテスト(P.55)をして分けた。

子どもがコースに合っていないと感じていると思う。このような場合、コース変更も可としている。

Q ふり返りカードは、時間がいっぱいでは書けない時にはいつ書くの？

A ふり返りカードを見ることにより思考の過程や人

の考え方のよさに気づくことができているかが知りたかった。(教師側が)2・3行ならすぐ書けるが、ファイト3発コース、ホープコース以外のコースでは、家庭学習にしている。

Q よりよい考えを練り上げるための学び合いが大切だと思う。チャレンジコースではレベルの高い課題の与え方を考えたり、ホープコースでは自力解決の時間を多く取ったりといろいろ手立てがあると思うが、各コースでどのような工夫点があるのか？

A ホープコースは、基礎・基本が定着していないためどうしても個別指導が多くなる。また、チャレンジコースは高いレベルの課題を提示する方法もあるが、自分の考えを人に分かりやすく伝えることが大切だと考えた。既習事項を生かして考え、人に伝え、共感性を持つ事により数学的な考え方を身につけさせたかった。

意 式を見て考え方を推測する方法は参考になった。

ホープコースは分割のみだったが、多様なものの見方ができるのが算数の楽しさなので、ぜひ他の考えにもふれさせてほしい。

Q 5つのコースでの実践の工夫は？コース分けにしている人間関係のトラブルは？

A 3年次から課題別などでコース分けをしているので、人間関係のトラブルはない。また、各コースの違いは、教師の支援の量と質にある。

3 御指導

今、何か課題なのかがずれていないことが大切。子どもたちが、人の考えをくみとることや、自分の考えを表現することが必要だと思う。また、子どもたちにどのような力をつけさせたいかを考えながら各コースの目標設定をしている。子どもを信頼し、まかせる場面が増えてくると、子どもと算数を創るという授業展開になる。宇多津北小は子どもたちに表現力のひきだしを多く持たせ、説明する能力を鍛えているなと思った。また、図形の面積を求める時に、マス目を数えるのがめんどろなので公式でやってみようという声など、子どもたちのつぶやきや反応の中に数学的なよさが見えていた場面が多々あった。